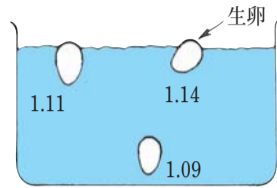


手順・管理

選種・種子消毒

比重選

※もみ枯細菌病、ばか苗病などの病粉を除去する。
※比重選後は必ず水洗いをする。

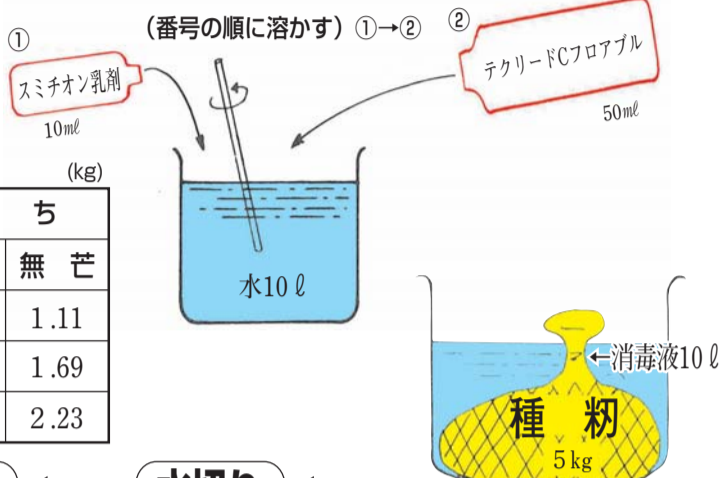


水10ℓ当り食塩・硫酸の量 (kg)

区分	うるち		もち	
	有芒	無芒	有芒	無芒
比重	1.11	1.14	1.09	1.11
食塩	1.69	2.25	1.32	1.69
硫酸	2.23	3.06	1.67	2.23

消毒

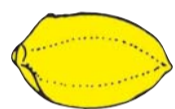
・心枯線虫病 (黒点米) ⇒ スミチオン乳剤
・いもち病・ばか苗病 ⇒ テクリードフロアブル
・もみ枯細菌病



催芽

浸種

水切り



※ハト胸状態に仕上げる。

※水の動きのない場所に3~4日間(ヒノヒカリは4~5日間)つけておく。水の量は種籾の2倍程度とし、水の入れかえは1日1回静かに行う。
※早めに催芽が認められた時は広げて陰干しする。

※24時間浸漬(1~2回かく拌する)
※種籾5kgに消毒液10ℓを用いる。
※種籾は荒目の袋にゆとりをもつて入れる。
※廃液は、魚毒が強いので、池や川に流さない。

苗の育苗様式と資材の準備

	稚苗	中苗	ポット成苗
床土	適した土	グリーンソイル	グリーンソイル
土の必要量 (10a当り)	4袋	3袋	4袋
種子必要量 (10a当り)	乾籾重 4kg	3kg	2.6kg
備 他 作 業	宇部培土は播種3~5日前に1袋当り水1ℓ程度を注入する。		
育苗箱数 (10a当り)	16~18箱	22~26箱	35~40箱
播種量 (1箱当り催芽籾)	140~160g (1.4~1.6合)	100~110g (1~1.1合)	50~60g (0.5~0.6合)
苗の大きさ (葉・草丈)	2.5葉・15cm	4葉・18cm	5葉・20cm
栽植密度 (3.3m当り) 1株植付本数	30×18cm 61株 3~4本	30×18cm 61株 2~3本	33×20cm 50株 2~3本
注 意	苗立枯病の予防には、ダコレート水和剤500倍液を播種時から緑化期(但し、播種14日後までに1箱当り500ml)を注水する。(タチガレンと5日以内の近接散布はさける)		

温度管理と育苗要領

日数	出芽期	緑化期	硬化期
温度	2~3日 30~32℃	4~5日 15~25℃	9~10日 12~22℃
管理	高温にならないように注意する。 出芽長は1cm以内とする。	幼芽が1cm位になったとき箱を広げてかん水する。 直射日光にあてないよう寒冷紗、育苗シートで被覆する(高温に注意)。	直射日光にあてる。 かん水は1日1~2回、十分に行なう。
中苗・成苗	<p>○苗代づくり(10a当り必要面積10㎡(約3坪)) 溝の土上げ→整地→施肥(3.3㎡(坪)当り育苗444を300gとケイカル1kgをまぜ合わせる。但し、土の肥沃度により加減する)→均平に床ならしする。</p> <p>○苗代への定置 箱並べ(床面への密着、水の吸い上げ確認) →育苗シートでトンネル被覆 雨が降っても水が苗床面に上がらないように排水口を開いておく。</p> <p>○発芽後の管理 4~6日して出芽がそろったら、育苗シートを取り除く。 苗箱の土が乾かない程度に水管理する。 追肥は1.5葉期頃に、液肥200倍液を1箱当り500ml施用する。</p>		

除草剤の使い方

使用適期	初期除草	中期除草	後期除草	
除草体系	7日前	田植 5日目	10日目 15日目 20日目 25日目 30日目	
一発除草	田植機による同時散布可能	カチボシ1キロ粒剤 5ℓ 1kg	ノビエ2.5葉期まで	[ノビエ・アセガヤ] クリンチャー1キロ粒剤(湛水散布) クリンチャーEW(湛水または落水散布)
		イネキング1キロ粒剤 1kg	ノビエ2.5葉期まで	
		シリウスエグザ1キロ粒剤 1kg	ノビエ2.5葉期まで	
液剤	サラブレードKAIフロアブル 500ml	ノビエ2.5葉期まで	[広葉雑草] パサグラン粒剤・液剤(落水散布)	
	ブルゼータフロアブル 500ml	ノビエ3葉期まで		
バック剤	カチボシLジャンボ 300g	ノビエ2.5葉期まで	[ノビエ・広葉雑草] クリンチャーバスME液剤(落水散布)	
	シロノックLジャンボ 350g	ノビエ2.5葉期まで		
二発除草	500ml	サンパンチ1キロ粒剤 1kg	ノビエ3.5葉期まで	

は、除草効果の使用最適期を示しています。

⑤ 移植前・播種前の除草剤使用は「7日前までに」行いましょう。

使用上の注意

- 田植後の除草剤散布上の注意
急激な気温上昇が予想される場合、薬害が出やすいので注意しましょう。
- フロアブル剤は、散布前にボトルを軽く振って原液をそのまま、10~15mの散布巾で散布する。(茎葉付着による薬害はない) 水中拡散性にすぐれるため散布巾による効果の変動は少ないが田面露出の場合は効果が少ないので十分な湛水状態(3~5cm)で散布する。
- 散布後7日間は、そのまま湛水状態を保ち、落水、かけ流しをしない。
- シノホップブチル(クリンチャーの成分名)を含む農薬の総使用回数は3回以内。
- [共通]
● 砂質土で漏水の大きいほ場(日減水深2cm以上)・強還元田では使用しない。
● 極端に浅植になったほ場では使用しない。

11月~4月 5月 6月

水管理

乾田直播

主な作業と管理の要点 (赤字は基幹防除)

11月~4月	5月	6月
土づくり 越冬害虫の防除 畦畔・休耕田の雑草を刈り取る。(ヒメトビウンカ対策) 冬期乾田化 土づくり資材の施用(施肥例参照)	耕転 畦畔直播の場合は冬期間に1~2回耕転する。	本田準備 (水50~100ℓに溶かす) ラウンドアップマックスロード500mlを散布する。 砕土、地ならしをすいていねいに行う。雑草の多い場合は耕起直播の場合は冬期間に1~2回耕転する。
選種 上段別記参照	鳥害対策 キヒゲンR2フロアブル(乾燥種子1kg当たり200ml塗沫処理) 上段別記参照	除草 播種直後 五月中旬(入水一カ月前頃) 10a当り四~五kg (施肥例参照) マシエット乳剤 水に溶かす
	基肥 五月中旬(入水一カ月前頃) 10a当り四~五kg (施肥例参照)	播種 アトマイヤー1粒剤3kg 液剤1000ml クリンチャーバスME 水に溶かす
	除草 一〇日~一四日頃 播種後 液剤1000ml クリンチャーバスME 水に溶かす	除草 一〇日頃 展着剤を必ず加用する クリンチャーEW 展着剤を加用しない ワイドアタックSC 水に溶かす
		追肥 (施肥例参照) 入水五~一五日後 イネキング粒剤1kg 又は シリウスエグザ粒剤1kg 三〇cm以上欠株の場合補植する。 一~二回走り水して徐々に湛水する。(三~五葉期) 水に溶かす

以降の管理は 機械植栽培に準ずる

※ 水稻除草剤の使用時期を守り、農薬散布後の止水管理を徹底しましょう。